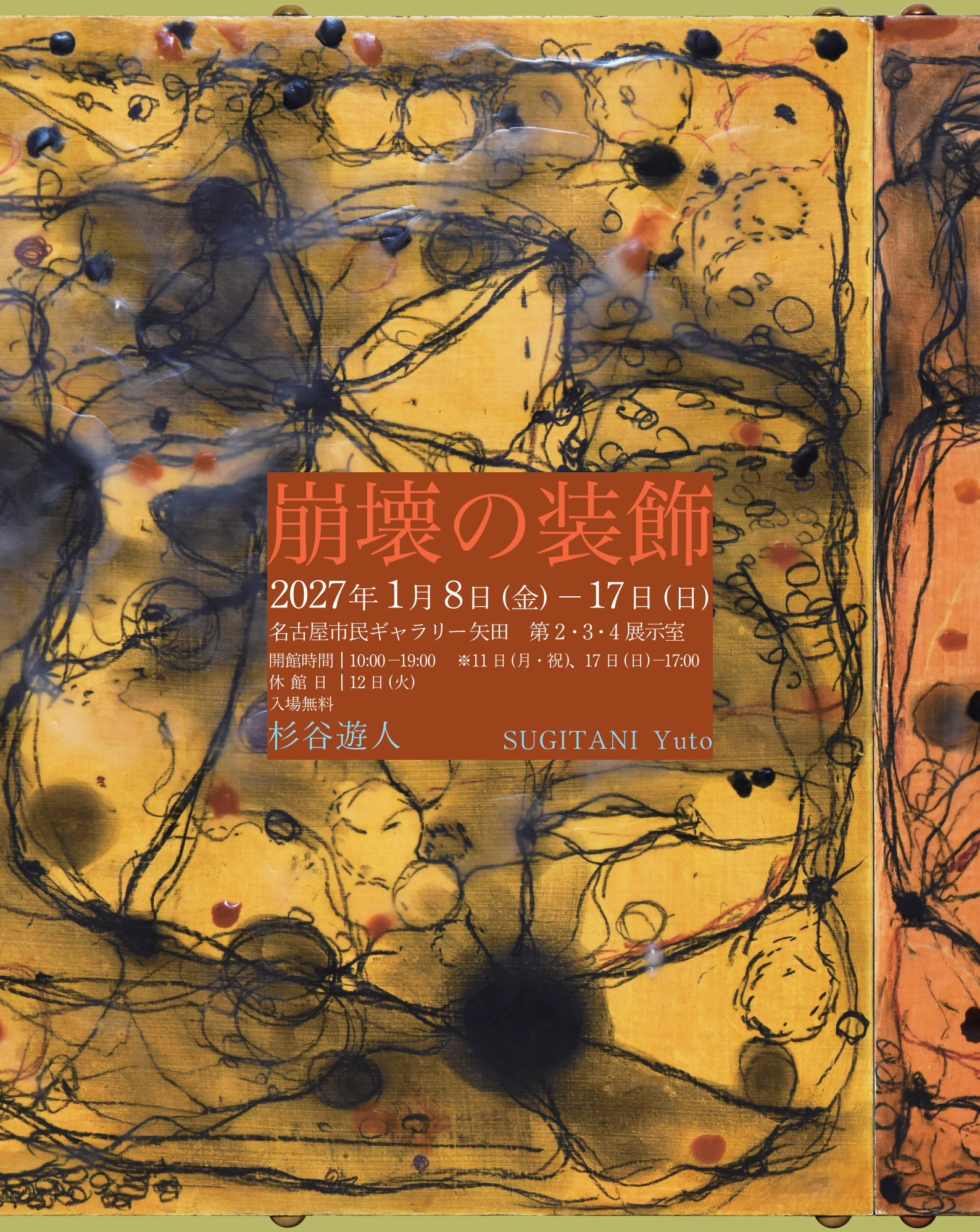


# 崩壊の装飾

2027年1月8日(金)－17日(日)

名古屋市民ギャラリー矢田　第2・3・4展示室

開館時間｜10:00－19:00　※11日(月・祝)、17日(日)－17:00

休 館 日｜12日(火)

入場無料

## 杉谷遊人　SUGITANI Yuto

主催：ファン・デ・ナゴヤ美術展 2027「崩壊の装飾」実行委員会 / 公益財団法人名古屋市文化振興事業団

公益財団法人 名古屋市文化振興事業団

イベント

▶アーティストトーク
1月16日(土)16:00–17:30
アーティスト:杉谷遊人
ゲスト:副田一穂(愛知県美術館学芸員)
場所:市民ギャラリー矢田　第2展示室
参加無料(申込不要)　先着30名程度

▶3企画合同ギャラリーツアー
1月9日(土)14:00–15:30
アーティスト:三浦琉聖、AHMED MANNAN、峰松沙矢、玉住聖、
杉谷遊人、小畑咲音
ゲスト:鈴木俊晴(豊田市美術館学芸員)
集合場所:市民ギャラリー矢田　第2展示室
参加無料(申込不要)

# 崩壊の装飾

## 2027年1月8日(金)
## ―17日(日)

10:00―19:00
※11日(月・祝)、17日(日)―17:00
▷休館日｜12日(火)　入場無料

この数年、工場の労働で毎日目にしていた家具の傷や、近所の落雷によって傷つき死に瀕した大木、私が住む地域で近いうちに起こると言われている地震のことが、いつも気になっていた。

本展では、崩壊という現象や言葉のうちにある、肯定や否定に回収されない思考を取り出し、そこで駆動する固有の力学を造形の実践を通じて扱う。それは近年、戦争、災害、政治、経済、自然などの状況に結びつけて頻繁に語られる崩壊という現象を、あるものが変形すること、そこから別なものが生じることを可能にする運動として、制作のなかで作り直すものでもある。
芸術というフィールドから離れた生活の場においても、基本的かつ身近な技術である装飾。それは独立した形式を持たないことで、あらゆるものに寄生・感染し、内部から安定した枠組みを蝕む。一方で制作は、物質や形の操作によってイメージを作り、周囲の環境を覆うことで、それ自体ある種の装飾となり得る。装飾がある構築的なパターンの反復によって秩序を生み出し現実を支えるものであるとすれば、むしろ壊れ、破れ、傷といった崩壊の兆し、そこにあるままならなさを条件とする装飾を作りたい。これが本展覧会名称の周辺で考えていることです。

絵画制作という閉鎖的にもなり得る営みを、それでもなお、現実を別のかたちへと造形するひとつの技術と捉えたい。

## 杉谷遊人　SUGITANI Yuto

1997年三重県生まれ。2022年名古屋造形大学大学院造形研究科修士課程洋画研究領域修了。三重県を拠点に活動。テーブル状に形態が変化する作品を契機に、板を支持体として主に絵画を制作してきた。近年は装飾の造形、機能や性質、絵画との連続性に関心を寄せ、「描くこと」を「作ること」と捉え直しながら新たな展開を模索している。主な展覧会に「群馬青年ビエンナーレ 2025」(群馬県立近代美術館 / 群馬・2025)、「Outside the White Cube: Place to Exchange Any Ideas for the Arts」(Kunst im Hafen e. v. / デュッセルドルフ・2023)、「語源は話す、いくつかの方法」(アートラボあいち / 愛知・2022)がある。


1


2

1.《蒸留機関》/ 1540×429mm / 2025
油彩、コンテ、パステル、蜜蝋、白亜地、木材、アクリル樹脂、顔料、鋲、麻布

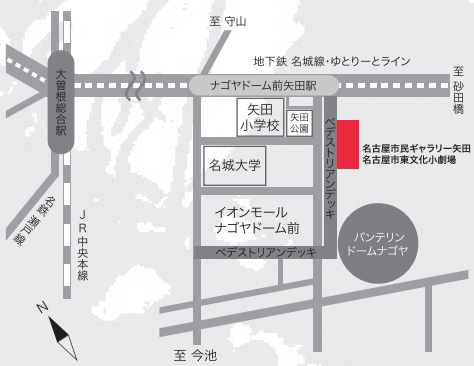
2.《黒い単身像》/ 1355×362mm / 2025
油彩、コンテ、パステル、蜜蝋、白亜地、木材、アクリル樹脂、顔料、鋲、麻布

同時開催
・第1展示室「包まれた触れ幅に」
企画者:三浦琉聖
出品作家:三浦琉聖、AHMED MANNAN、峰松沙矢、玉住聖
・第5～7展示室「律動」
企画者・出品作家:小畑咲音

---

会場
名古屋市民ギャラリー矢田
名古屋市東区大幸南一丁目1番10号　カルポート東3F/4F
TEL 052-719-0430

交通アクセス
地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」下車 1番出口南へ徒歩5分
ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」下車 南へ徒歩3分
市バス「大幸」下車 徒歩5分(名駅15号系統、東巡回系統)




お問い合わせ
公益財団法人名古屋市文化振興事業団
TEL 052-249-9385　平日 9:00-17:00

NAGOYA Culture Fund
感動を育てる種をまこう。
名古屋市文化基金
Nagoya, City of Design